

第5回日経小説大賞が決定

第5回日経小説大賞（日本経済新聞社・日本経済新聞出版社共催）の受賞作が芦崎笙氏（53）の「スクール之夜」に決まりました。男社会の組織の中で女性が働く現実を圧倒的な筆力で描いたと高く評価されました。授賞式は2014年2月19日午後7時から東京都千代田区の日経ホールにて、一般公開で行います。授賞式に引き続き受賞者と選考委員3氏による座談会を予定しています。

なお受賞作は14年2月に日本経済新聞出版社から単行本として出版します。

「日経小説大賞」

1、選考委員 辻原登、高樹のぶ子、伊集院静の3氏

※「辻」の字は旧字体の「点が2つのしんによろ」です。

2、賞金 500万円

3、第5回受賞者 芦崎笙氏（あしざき・しょう＝ペンネーム）

国家公務員。大蔵省（現財務省）に入省後、税務署長、大使館、金融庁、内閣官房などを経て、現在、大臣官房参事官。53歳。

※ご本人の希望により、本名の公表は控えさせていただきます。

4、受賞作の内容

大手都市銀行で女性初の本店管理職に抜擢された吉沢環は子会社の解体など「汚れ仕事」に意気を感じるが、保守的な企業風土のなか、男性行員の感情的な反発を招き、派閥抗争に巻き込まれていく。

5、応募状況 13年4月から6月にかけて募集、応募作品数は200

《参考》

第1回（2006年10月） 武谷 牧子氏 「テムズのあぶく」

第2回（2008年10月） 萩 耿介氏 「松林図屏風」

第3回（2011年10月） 梶村 啓二氏 「野いばら」

第4回（2013年12月） 長野 慶太氏 「神様と取り引き」